

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和6年第I四半期（1～3月）

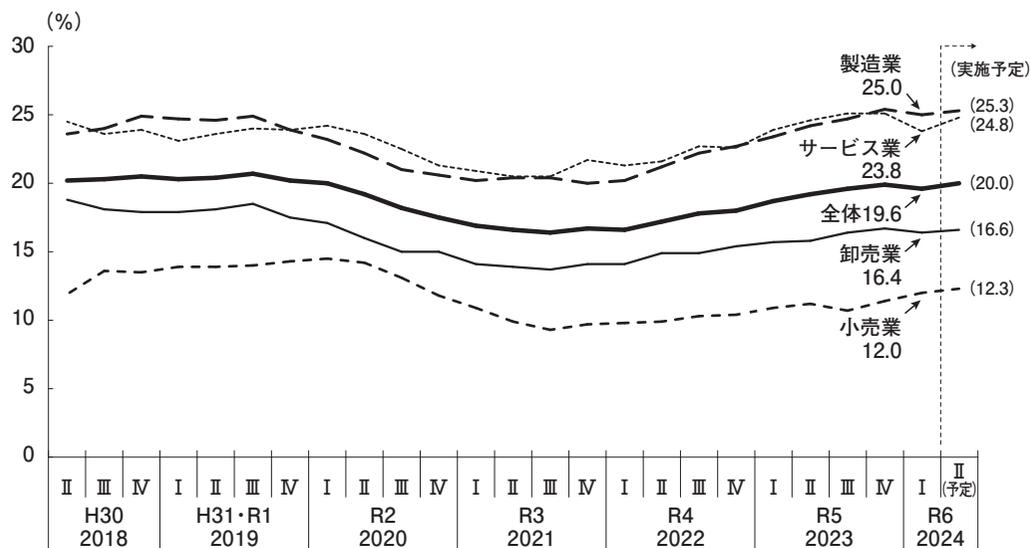
設備投資：わずかに低下 **資金繰り：横ばいで推移**
採算状況：全業種で悪化 **雇用人員：やや不足感が弱まる**

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和6年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は全体では19.6%となり、前期（令和5年10～12月）の19.9%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合はサービス業23.8%（前期25.1%）が大幅に低下、製造業25.0%（同25.4%）と卸売業16.4%（同16.7%）はともにわずかに低下した。一方、小売業12.0%（同11.4%）はやや上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 — 後方4四半期移動平均 —



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和6年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では20.0%となり、わずかに上昇する見通しとなった。

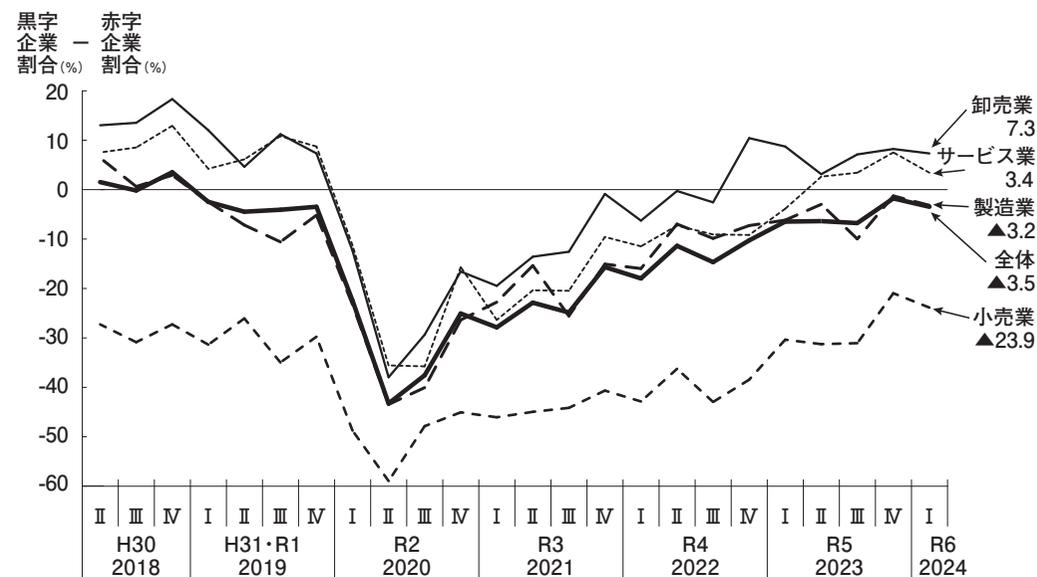
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて全ての業種で上昇が見込まれる。なかでもサービス業24.8%は大幅に上昇する見通しとなった。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲3.5（前期▲1.8）となり、1.7ポイント減少しやや悪化した。

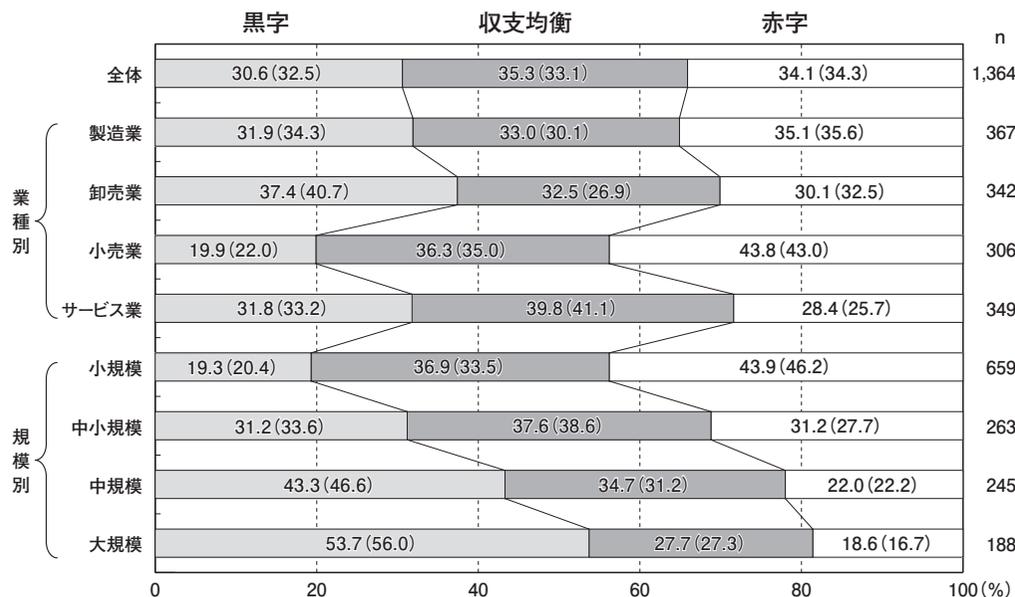
業種別にみると、サービス業3.4（同7.5）は4.1ポイント減少した。小売業▲23.9（同▲21.0）は2.9ポイント減少、製造業▲3.2（同▲1.3）は1.9ポイント減少しともにやや悪化、卸売業7.3（同8.2）は0.9ポイント減少しわずかに悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字が高くなり、大規模は53.7%（同56.0%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和5年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

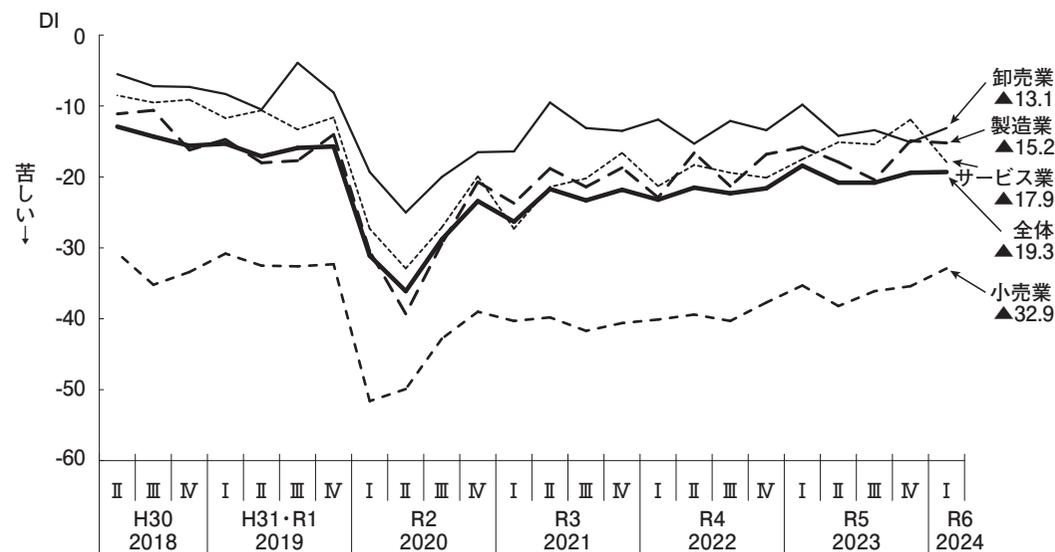
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、全体では▲19.3(前期▲19.4)となり、ほぼ横ばいで推移した。

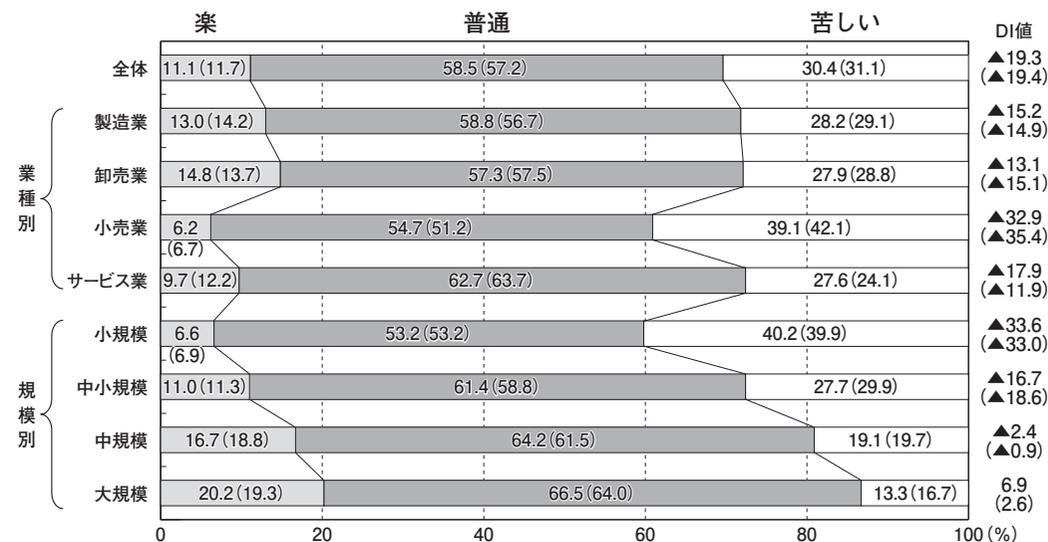
業種別にDI値をみると、小売業▲32.9(同▲35.4)は2.5ポイント増加、卸売業▲13.1(同▲15.1)は2.0ポイント増加とともにやや改善した。製造業▲15.2(同▲14.9)はほぼ横ばいで推移した。サービス業▲17.9(同▲11.9)は6.0ポイント減少し大幅に悪化した。

規模別にDI値をみると、大規模6.9(同2.6)は4.3ポイント増加し改善、中小規模▲16.7(同▲18.6)は1.9ポイント増加しやや改善した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



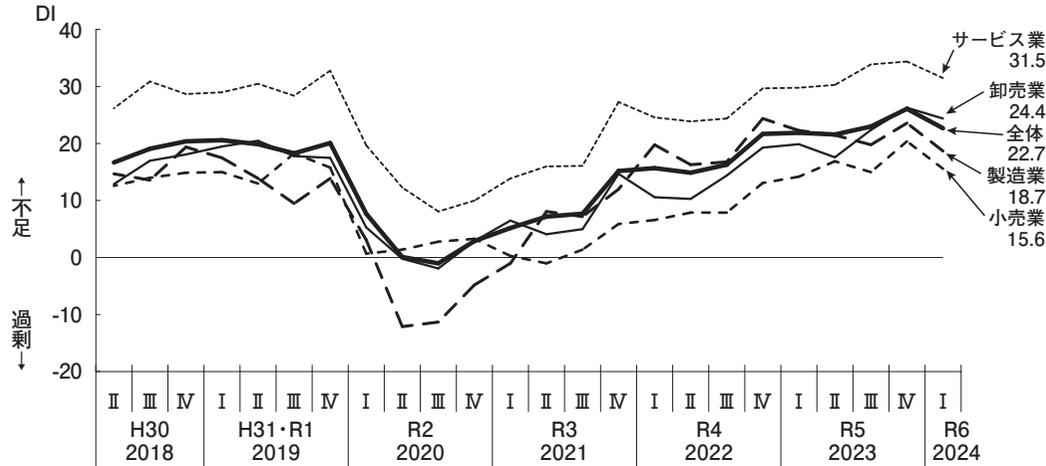
注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和5年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では22.7（前期26.1）となり、やや不足感が弱まった。

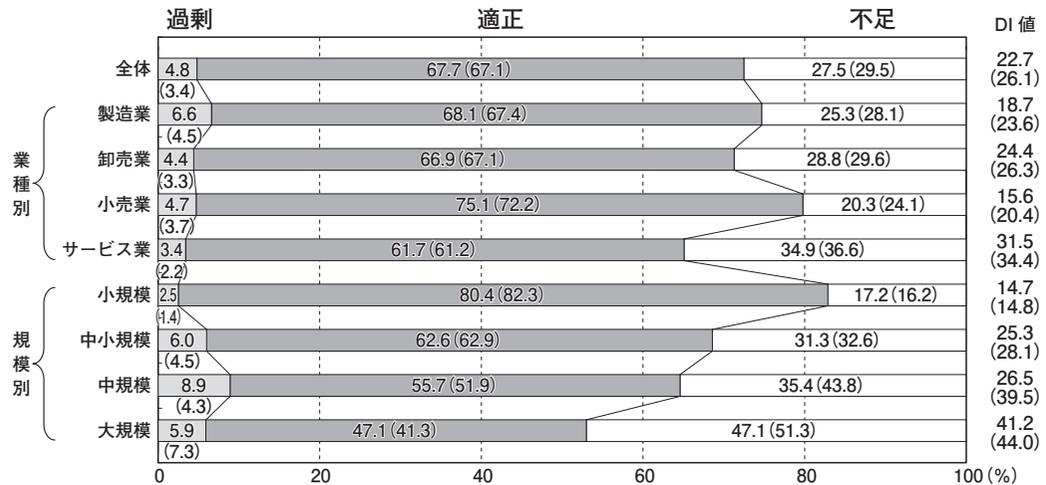
業種別にDI値をみると、製造業18.7（同23.6）は4.9ポイント減少、小売業15.6（同20.4）は4.8ポイント減少とともに大幅に低下した。

図表6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は41.2（同44.0）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和5年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。